

心の輪を広げる体験作文 小学生部門 優秀賞

「自分の性別」

相模原市立小山小学校 六年 榎本 翔介

えのもと しょうすけ

僕は、生まれた時は自分の性別が男の子だった。しかし、成長するにつれて、見た目は男性でも、仕草は女性のようになってしまった。

これが原因で、僕は学校でみんなからいじめられるようになった。体育で着替える時に、「お前女だろう。あっちで着替えるよ。」と言われたり、「おかま」と言われるようになった。とても嫌だったが、笑顔を作ってやり過ごした。本当は、ちゃんと自分の名前で呼んで欲しい。走り方や仕草もこのままでいたい。

そんな時、LGBTがテーマで、自分の性別が男性なのか女性なのか分からないという男性の人の講演を聞きに行った。LGBTとは、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（性別越境者）の頭文字をとった単語で、セクシュアル・マイノリティー（性的少数者）の総称のひとつだ。実際にその人と話をして、他にも僕と同じような思いをしている人がたくさんいると知って少しホッとした。が、その人はこんなことも言っていた。これらの特徴を『障害』という人もいる。そう言われると悲しくなる。『障害』とは、邪魔になるもの、体などの具合が悪い事をいう。僕は、体と脳がマッチしていないだけで、決して障害ではないと思う。好きでこうなっているわけではないし、自分でもどうすればいいか分からない。

しかし、時にはそんな僕に理解を示してくれる人もいる。美容院

に行った時、女の子みたいに髪を伸ばしてみたかった僕の気持ちを分かってくれ、親身に話を聞いてくれた人がいた。変な子だと思われると思ったのでとっっても嬉しかった。テレビでも男性なのに女性のようにふるまっている人が出ているが、生き生きと活躍している。

今もまだ自分の性別が分からないままだが、自分のなりたいように好きに生きていきたい。そしてそれが誰からもおかしいと思われないみんなに受け入れられる世の中になって欲しいと思う。